

看護業務の効率化 先進事例アワード2020

優秀賞【業務改善部門】

株式会社デザインケア

みんなのかかりつけ
訪問看護ステーション

ICTツール×ウェブ会議最大活用による
業務効率化への取り組み

プレゼン動画視聴はこちら ▶



日本のビュートゾルフを目指して 日本の隅々まで“最高のケア”を届ける



株式会社デザインケア

所在地 愛知県名古屋市

従業員数 約120名

うち看護職員数：71名

(2020年12月1日現在)



みんなのかかりつけ
訪問看護ステーション

背景 訪問業務以外の業務と移動時間の負担

- 訪問看護ステーションの業務性質上、情報共有・相談・記録作業・社外からの連絡対応など、訪問業務以外の業務が多い。また、事務作業のために事務所へ戻る移動時間も、残業の大きな要因となっている。

目的 スタッフの労働環境改善 “ベターワーク”

- ICTツールの導入やウエブ会議の最大活用により、事務所以外の場所で業務処理ができることでスタッフの労働環境を改善する
- 事務作業の効率アップ、業務の時短、移動時間の減少により、利用者様のケアに使える時間を増やす

情報の共有化

- 情報をいつでも誰もが素早く公平に知ることができ、情報不足によるサービスの差をなくす

データの蓄積

- 情報を蓄積すると同時に取り出しやすくし、サービスの質の向上につなげる



取組の経緯

2014年	常勤従業員全員に1人1台の携帯電話(ガラケー)貸与	●会社支給の携帯を使うことで、個人の通話料負担などがなく業務連絡がしやすくなった。
	スマートフォンからFAXが送れるアプリ導入	●記入した書類などをプリントアウトしてFAXするという手間が省けた。 ●事務所等のFAXのある場所でしか作業ができなかったものが、どこでも素早くできるようになり、ケアへの反応が早くなった。
	社内連絡用のチャットツール導入	●困りごとや相談ごとをリアルタイムで共有できた。 ●事務所に戻って上司へ相談するための待ち時間がなくなった。 ●チームや事業所内で情報の共有がスムーズにできるため、1対1の相談でなく、チームメンバーや専門性のある者からの回答も得られやすくなった。
2017年	常勤従業員全員に1人1台のスマートフォン貸与	●入力のしやすさがアップした(音声入力を含む)。 ●教育動画の視聴などもできるようになった。
2018年	ウェブ会議を最大活用	●会議の日程調整などの時間が短縮できた。 ●会議へ集合するまでの移動時間の短縮ができた。
2019年	看護記録システムをより使いやすいものに変更	●UI（ユーザーインターフェイス：User Interface）のよいものに入れ替えることにより、使い勝手の良さが上がり、入力時間の短縮につながった。



運用ルールについて

- 訪問記録は会社貸与の**スマートフォン**で、**訪問時または訪問直後に記録**
- 業務の報告・連絡・相談は**チャットツール**で
- 会議等は、対面式にこだわらず**ウェブ会議を最大活用**



さらなる改良・改善策

- 1人1台のノートパソコンを用意**することで、業務の待ち時間をゼロに
- 音声入力を活用**することで、入力時間を短縮

Point!

コストに対する考え方

- ✓ 1人あたり1か月約4,000円の経費がかかっている（機器リースやその他システム使用量など）。
- ✓ 業務の効率化により時間外業務が削減できること、従業員の満足度などを考えると、投資効果は十分。
- ✓ IT導入補助金も利用している。

■成果：実現した「看護業務の効率化」

1 事務作業等の時間の短縮

- 会議時間の調整、情報を探す手間、記録する内容を思い出す時間などが削減された。
- 訪問記録を訪問時（訪問と訪問のあいだなど）に行うことで、事務所に戻っての作業が軽減した。

2 労働環境の向上

- 事務所に戻らなくてはできない業務がほとんどなくなることで、移動時間の削減につながった。
- 紙ベースでの業務が減り、書類・データのコピーやファックス送信などの作業が簡略化、作業スピードがアップした。

3 看護職の身体的負担・精神的負担の軽減

- 急な私事（子供の体調変化など）の場合にも、在宅で記録業務等の事務対応が完結できるようになった。
- コロナ禍においても、従業員の負担を増やすことなく対応できた。

4 利用者に対して最高のケアが提供できるように

- 上記①②③から、全員が同じ情報を得ることで、利用者が何を求めているかを共有できるようになるとともに、看護業務以外の事務処理等の時間が短縮され、より利用者のケアに対する時間が取れるようになった。

■ 効果：看護業務効率化によって「もたらされた効果」

1 情報の抜け漏れの解消

- 訪問時または訪問後の素早い情報入力で情報の入れ忘れが防止された。
- 音声入力を利用することで、情報を素早く細かく入力できるようになった。
- クラウド上で誰もが同じ情報を確認できるため、情報の個人差によるケアの不均衡が是正された。

2 ケアをスピーディに対応

- 現地で連携が完結し、早期の情報共有により患者の安心感・早期介入につながった。
- 多職種への報告内容をすぐに出せるシステムにより、患者への早期介入を実現できるようになった。

3 チーム間のコミュニケーションの向上

- チーム内での情報の対称性が実現され、同じ方向を向いたケアが可能になった。
- 他チームのケア状況を見られることで、良い例を参考にすることができ、チームの総合力が上がった（情報共有による良いケアの広がり。ケアが磨かれていった）。
- データを誰もが見られることで、バックオフィスのスタッフも具体的なケアを実感できた。

■ 効果：看護業務効率化によって「もたらされた効果」

4 不安事項のスピーディな解消

- チャットツールによるリアルタイムの情報共有で、事務所での会議や相談を待たなくても不安や疑問に対する答えがスピーディに帰ってくるようになった。
- 上司だけでなく、チームメンバーや専門性のあるスタッフから、多様な意見が聞けるようになった。

5 多様性のある働き方に対応

- 画一的な働き方だけでなく、従業員一人一人に合わせた働き方が可能になった。
- スマートフォン上で訪問看護の学習動画を視聴できるなど、記録やコミュニケーション以外に教育ツールとしても使用できるようになった。



Point!

人材確保にも好影響

- ✓ 看護職の満足度が上がることで、スタッフが友人・知人に自分の職場が働きやすい環境であることを紹介するなど、人材が集まりやすい環境になった。

① 横の広がり

さまざまなICT技術を使えば、5Gの拡大も
伴いドクターのいない地域にも**訪問看護や
D to P with N (Doctor to Patient with
Nurse)**などの**遠隔医療が広がる**と思う。

現在でも慢性疾患は、電話等を利用しての
疾病の管理ができていますので、よりICTが
広がることで、**利用者様の立場に立った
看護を提供**していきたい。

② 縦の広がり

現在「医療の質安全室」を立ち上げ、
“在宅のケアの質”のデータを取るために、
在宅ケアの指標となるものを作り、それを
より磨いていくことで**利用者様の満足度**を
さらに上げていきたい。



Point!

これからICT化を進める場合

- ✓ 今までのやり方を変えると、一時的には生産性が下がることはやむを得ないが、目的・メリットをはっきりと持つことで乗り越えることができる。メリットを実感でき始めるとICT化の展開も早くなる。
- ✓ まず第一段階としては、コスト的な面からも情報交換のツール（チャットツールなど）を導入することで、情報共有のしやすさや業務効率の向上が実感できるとともに、時間外労働も減っていくことが実感できるのではないかな。